

ブンブンどりむ 監修者

齋藤孝先生の本を読む。

この春、「ブンブンどりむ」の監修者となられた齋藤孝先生。テレビや新聞で見知ったその名前に「えーっ、齋藤孝さんがっ!!」と驚き喜んでくださった保護者の皆さま。どうぞ、本誌編集者らが綴ったこの「BOOK REVIEW」をご一読ください。皆さんがそれぞれに抱く齋藤孝先生のイメージがより広がりを持つと同時に、「国語力」「日本語」の多角的な魅力、可能性を十二分に感知していただけるはず。 (文中敬称略)



齋藤孝先生

明治大学文学部教授
1960年、静岡県生まれ。専攻は教育学、身体論、コミュニケーション療法。

「世界」を表現しつくそう。

本書の魅力は、原稿用紙10枚ぶんを書くために「何が必要か」ということが、手をとりに足をとるようにしてレクチュアされていることにある。

むしろ、ここでその美意識を公開してしまえば、本書の魅力と価値も半減してしまうのだが、それを承知のうえで、著者の思いに深く同意した1節だけを紹介しておきたい。

「たとえば、スポーツライターになるためには何が必要だろうか？」



原稿用紙10枚を
書く力
大和書房 (2004)

「やほりスポーツが好きで、自分でもやっていたり、よく試合を見ている人が向いているのか？ そうではない。ライターとして実力のある人が、スポーツについて書けばスポーツライターとなる。極端に言えば、実力ある料理ライターがスポーツを書くトレーニングをしたほうが、スポーツ好きがスポーツライターになるよりも早い。」

ここには「書く」という行為によつて、「世界」を表現しつくすことができる、という確信がはみえるのだ。

(Q)

精神の緊張を伴う読書を。

本を読むことの意味は何？ 読書をすることでどういうメリットがあるの？ 本書は、こうした問いに、近年の日本語ブームの火付け役である著者が挑んだ1冊である。

著者は、読書を「自分をつくり、鍛え、広げていくもの」としている。第1章で、読書を入部1つととらえ、三色ボールペン活用術など具体的な「技」の上達法を述べている点は興味深い。

「読書力」というタイトルにも注目したい。「読



読書力
岩波新書 (2002)

書力がある」とこの目安を「文庫百冊・新書五十冊」を読むことに設定し、ただ何でも読むのではなく、多少とも精神の緊張を伴う読書の必要性を説いている。

また巻末には、おすすめ文庫百選を挙げ、読者の興味をひきつけている。

最近の著者の活躍が、豊富な読書によって築き上げられたのは言うまでもない。著者が述べているように、読書をたつぷりとしてきた人が、読書を軽視する態度はゆるせない。本書は、あらためて読書の良さを気づかせたくむ、そんな本である。

(K)

「過剰」ゆえの異質な味わい。

著者が「最も愛している作家」と呼んではばかることのない、19世紀ロシアの作家・ドストエフスキイ（およびその作品）について語った1冊。

ドスト氏およびその作中人物たちを「過剰な人」と定義し、かれらに共感と愛情をもって接しつつ、その「過剰」ぶりを縦横無尽に論じているのだが、本書を彩る「過剰」さは、しかし「過剰」であればあるだけ、他の著者の著作とは異なる味わいかたを、読



過剰な人
新潮社版 (2004)

者に要求してしまうのだが。というのも、ここで述べられる作中人物やドスト氏自身は、決して「役取り力」の人でもなく、むしろ「無用の人」にはかならないからである。

このような、社会にとつて何の役にも立たない人間群像にも着目する（してしまおう）ところが、著者をたんなる「できる人」ととらえておかない魅力のひとつなのだろう。

「悪黨」のスタッフウーギンを、過剰に「期待はずれ」ととらえているのには、個人的には異論があるのだが。

(Q)

クセのある人を愛そう。

「偏愛マップ」とは、自分の「大好きなもの」を書き込んだマップのこと。例えば、岡本太郎ならば、「太陽の塔、原始パワー、鯉のぼり、呪術力、アフリカ、ルンバ……」、向田邦子ならば、「帽子、東光園のチャシューメン、双魚の青磁、ヤボツたい名前、おこげ、部屋の隅っこ……」などの文字が紙面いっぱいに書き込まれることになる。そう、本書が勧めるコミュニケーション・メソッドとは、「互いの偏愛やクセの結びつ

きによって、いい人間関係は生じるものだから、互いに自身の「偏愛マップ」を見せ合って、良質な人間関係を築きましょう」というもの。著者自身、合コン、セミナー、講演会などさまざまなシーンで「偏愛マップ」を利用、数々の「奇跡の出会い」を出してきた。すでに「お互いにマップを出さなくとも人が偏愛マップに見えてくる」域にまで達しているという。「クセのある人を愛そう」とのメッセージが込められたこのメソッド、「日本語力」の名トレーナーである著者の勧めという意味でも興味深い。

(下)



キラいな人がいなくなる
コミュニケーション・メソッド

偏愛マップ
NTT出版(2004)

きによって、いい人間関係は生じるものだから、互いに自身の「偏愛マップ」を見せ合って、良質な人間関係を築きましょう

家庭での日本語力のきたえ方を紹介。

学習塾「寶藤メソッド」(対象4~6年生)にて、テキストとして使用されるのが、著書「声に出して読みたい日本語」(草思社)と「理想の国語教科書」(文藝春秋)だ。本書では、その「理想の国語教科書」の編纂意図、「理想の国語教科書」を用いての家庭での読書指導法が紹介されている。

少年時代のイチローが、毎日、早い球を何発も打つて目利きになったように、子どもには、漱石、小林秀雄といった「本物」をど

(下)



子どもの日本語力をきたえる
親子で読む

「理想の国語教科書」
文藝春秋(2002)

た「本物」をど
んどん読ませ
ばいい。ただし、
大卒者ならば「人
間失格」よりも
「走れメロス」、
漱石ならば「こ
ころ」よりも「夢
十夜」などと、筋

子どもに説く「家族の中での役割」。

「家族というのは、みんなが助け合うチーム、キミにはキミの役割がある。キミは家族を元気にする、会話隊長になれ！」

本書は小学生を対象に、著者が「家族」とは何か、家族の中での子どもの役割とは何かを、飾らない言葉で語りかけている。

家庭での会話の減少が嘆かれている現代において、著者は生きていく上で大切だと思うことを、子どもたちに向かってはつきりと、強いのが、「家族」という共同体チームだ。これほど忙しくても、親が子どもを愛しいと思う気持ちは、昔も今も何も変わっていない。親の投げる愛のボールを、子どもは受け止める義務がある。そのことを、本書はよく教えてくれる。

今の子どもに、そして昔は子どもだったその親にも、度手にとって読んでほしい。きっと何か少しだけ、自分の中で「家族」が変化するはずだから。それにより良い方向に。(Y)



齋藤孝のガツンと一発シリーズ 第5巻
家族はチームだ
もっと会話をしろ!
PHP研究所 (2004)

言葉で言う。命の誕生から成長、やがて独立し、また新たな命を誕生させていく。この種々と繰り返される営みを支えている

ほかにもいろいろ・齋藤孝先生の本

- ・「声に出して読みたい日本語」 草思社
- ・「CD ブック 声に出して読みたい方言 —「方言の湯」に浸ろう」 草思社
- ・「高右の論吉 才能より決断」 光文社
- ・「齋藤孝の音読破 (1) 坊っちゃん」 夏目漱石著、齋藤孝編集 小学館
- ・「コメントカ」 筑摩書房
- ・「読カ」 三笠書房
- ・「段取りカ」 筑摩書房
- ・「質問力一語し上手はここがらう」 筑摩書房
- ・「日本語力と英訳力」 中央公論新社
- ・「齋藤孝の勉強のチカラ」 宝島社
- ・「『東大国語』 入試問題で鍛える! 齋藤孝の 読心チカラ」 宝島社
- ・「子どもの集中力を育てる」 文藝春秋
- ・「齋藤孝の相手を侮ばす! 教え力」 宝島社
- ・「齋藤孝のアイデア革命」 ダイアモンド社
- ・「説教名人」 文藝春秋
- ・「声に出して、書いて、おぼえる! 齋藤孝の日本語プリント四字熟語編一」 小学館
- ・「齋藤孝の日本語プリント一 [名文書き取りプリント]」 小学館
- ・「発想名人」 文藝春秋
- ・「スポーツマンガの身体」 文藝春秋
- ・「三色ボールペン情報活用術」 角川書店
- ・「三色ボールペンで読む日本語」 角川書店
- ・「ストレス知らずの対話術」 PHP 研究所
- ・「理想の国語教科書 新版」 文藝春秋
- ・「天才の読み方一究極の元気術」 大和書房
- ・「会議革命」 PHP 研究所
- ・「スラムダンクな友情論」 文藝春秋
- ・「人間劇場」 齋藤孝 編集 新潮社
- ・「理想の国語教科書」 文藝春秋
- ・「からだをほぐさる英検入門」 角川書店
- ・「齋藤スタイル—自分を活かす源泉」 マガジンハウス